



1. 宮城県名取市のサイクリンググループがお祝いに駆けつけた / 2. 小手小に通っていた笹原煌平さん（月舘学園小6年）、羽賀心咲さん（月舘学園中2年）もテープカットに加わった / 3. 幅 24号の板をゆっくり渡るバトルも行われた / 4. 月舘学園吹奏楽部の演奏で盛り上がり、陽気に踊り出す観客も。

「『きてみ~な』に行ってみ~な」

10月28日㊥、月舘町の旧小手小学校を改装した簡易宿泊施設「おての里きてみ~な」がオープンしました。須田市長は「地域に愛され、訪れた人にまた来たいと思ってもらえるような施設にしたい」とあいさつ。地元の糠田地域振興会の矢館実也会長は「市外の人に『きてみ~な』^{やだてみつや}とPRしてください」と話しました。小手小学校の卒業生で、子どもも小手小学校に通わせていた齋藤智美さんは「コロナで予定した閉校式ができず寂しい想いをしていた。面影を残してきれいな施設になってうれしい。これからみんなに愛される施設になってほしい」と感慨深い様子で話していました。



市長コラム 第60回

「『二戦必勝』を貫いた伊達市ソフトボールチーム」

須田 博行

暑い夏がようやく終わったかと思ったら、秋を通り越して冬が間近に迫って来ています。各地で短い秋を惜しむかのように各種スポーツイベントが行われています。そうした中、伊達市にとってもうれしいニュースがありました。「第10回市町村対抗福島県ソフトボール大会」において、伊達市チームが見事「初優勝」の栄冠を勝ち取りました。大水害と地震、新型コロナなどで苦難を強いられてきた市民に大きな喜びと希望を与えてくれました。スポーツの持つ力の大きさを改めて実感したところです。

この栄冠は、現チームの代表をはじめ、監督、コーチ、そして選手が丸となった証ですが、歴代の監督やコーチ、選手の皆さんの力が結集された勝利だと思います。決勝戦の相手は同じ伊達地方の国見町。練習試合などで交流を深めている仲の良いチーム同士ですが、手に汗握る白熱したすばらしい試合であったと聞きました。両チームの健闘に心から拍手を送りたいと思います。さて、大会前の壮行会で私は、「ぜひとも優勝を目指してほしい。市民が期待している。」とあいさつしました。要らぬプレッシャーをかけてしまったかと反省しましたが、伊達市チームはそんな懸念を見事跳ね返してくれました。優勝を目標にはしていても、一戦一戦大切に戦うことだけを考えていたようです。

チームの合言葉は「一戦必勝」。先の試合のことは考えずに目の前の一戦に全力を尽くして勝つ。この想いを全員が共有して戦った結果だと思えます。それは試合後に球審が「伊達市の一球に対する集中力が上回った。」とコメントしたことにも表れています。

「二戦必勝」を最後まで貫き市民に感動を与えてくれた、伊達市ソフトボールチームに心から感謝します。ありがとうございました。